

弱いということがひらく

哲学・表現・保育のあわいから

西平直（哲学）× 生井亮司（表現）× 箕輪潤子（保育）

2021.11.28 日 13:00-15:00 オンライン開催（参加無料）

2019年「弱さと生きる」というテーマでシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムはそのテーマを引き継ぎながら、「弱いということ」についてあらためて考えてみたいと思います。私たちは気づかぬうちに強くあること、目的をもって生きること、それに向かって進んでいくことを強いられています。しかし、私たち人間が生きることとはそれほど単純なことではないかもしれません。それぞれの人が与えられた生を生きること、個として生きることとはいったいどのようなことなのでしょう。答えは簡単には出せそうにありませんが「弱いということ」について考えてみることから、私たちが生きることのささやかな姿を浮かび上がらせてみたいと思います。

参加ご希望の方は、【2020年11月26日（金）】までに以下のURLもしくはQRコードからお申し込みをお願いいたします。
事前登録のメールアドレスに当日の開催案内詳細（Zoom情報）をお送りします。

<https://docs.google.com/forms/d/16KypQya7GClamIVBbgPPiH0fhluxAf1LrmwrR16Kltk/edit>



主催：武蔵野大学同窓会むらさき会支部会 保育・幼児教育同窓会

共催：武蔵野大学幼児教育学科こころの教育センター

問い合わせ：武蔵野大学幼児教育学科 生井亮司（ryonamai@musashino-u.ac.jp）



西平 直 京都大学教育学研究科・教授

専門は、教育人間学、死生学、哲学。人の一生（ライフサイクル）について考えています。立教大学、東京大学に勤務の後、2007年から現職。2009年から毎年ブータンに通っています。著書に『魂のライフサイクル』（東京大学出版会）、『世阿弥の稽古哲学』（東京大学出版会）、『無心のダイナミズム』（岩波現代全書）、『誕生のインファンティア』（みすず書房）、『ライフサイクルの哲学』（東京大学出版会）、『稽古の思想』（春秋社）など。



生井 亮司 武蔵野大学教育学部幼児教育学科 学科長 教授

東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了 博士（美術）。東京藝術大学美術教育研究室助手、鎌倉女子大学非常勤講師等を経て現職。専門は美術（造形）教育哲学、彫刻制作。近年は現代哲学を援用しながら美術教育の人間形成的意義についての研究を行っている。また社会実装としての哲学対話（哲学カフェ）なども開催している。主に国展、個展を中心に作品制作発表を行う。主著は『美術と教育のあいだ』（東京藝術大学出版会、2011年）。



箕輪 潤子 武蔵野大学教育学部幼児教育学科 准教授

津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業、東京大学大学院総合教育科学専攻教育創発学コース博士課程単位取得満期退学。修士（教育学）。川村学園女子大学教育学部幼児教育学科を経て、2017年4月より現職。専門は保育学。砂場における遊びと環境、保育者の専門性について研究を行うと共に、園内研修などで現場の保育者と共に子どもと保育について考えることに取り組んでいる。厚生労働省保育専門調査官、我孫子市子ども子育て会議会長。主著は『遊びがもっと魅力的になる -3・4・5歳児の言葉かけ- 砂場編 - 若手保育者の指導力アップ』[単著]（明治図書、2009年）。

弱さよと強さがひらく
哲学・表現・保育のあらいから